

Kochi Normalization

ノーマライゼーション

高知市社会福祉協議会 障害者福祉センター

Vol.36

2013.11



ライフ・ステージ
あおぞらセンター



菓子工房レネー



高知ハビリテーリングセンター
就労支援事業所



障害福祉サービス事業所
あさひ・はばたき



ワークセンター太陽



すずめ旭天神センター

特集!

就労継続支援事業所で行う農業.....②~⑤

旭オンリーワン芸術祭開催!⑥

障害者福祉センターだより⑦

リレーエッセイ⑧

インフォメーション



きすな

就労継続支援事業所で行う農業

障害のある人たちが働いている就労継続支援事業所では、ティッシュや脂紙等の商品の袋詰めのような軽作業から、パンやケーキ作り、喫茶店の運営等さまざまな事業を行っています。今回、私たちの「食」に直接関わる農業を取り入れている事業所取材しました。

障害のある人が働く就労継続支援事業所（以下、事業所）は、パンやケーキの製造、ジャム等の加工食品の製造、パソコン・IT関連等、非常に幅広い内容の事業を行っています。事業所では屋内での作業が中心で、農業を取り入れているのは、公表しているだけで高知市内に10か所あります。（A型2か所、B型8か所、高知県障害保健福祉課調べ）

農業は一般的に天候に左右されることも多く、土地の確保や農具やビニールハウス等の設備を構えるにも費用がかかり、収穫した作物の価格も年によって変化することも多く、また、宣伝するだけでなく確実な販売ルートを確認していく必要があります。工賃（利用者の給料）の向上や利益を上げていくことを中心に考えるのであれば、リスクのある農業は積極的に選択しなければならぬ事業ではありません。

どのような経緯や目的で農業を選択したのか。市内の6か所の事業所に取材を行い、その理由を探ってきました。

就労継続支援事業とは…

「就労継続支援事業」は、通常の事業所での就職が難しい人のために働く場所の提供や、就労に向けての知識や能力の向上を目的とした事業。種類はA型とB型があり、A型が事業所と本人が雇用契約を結ぶ必要があり、B型は雇用契約を結ぶ必要がない点です。今回取り上げた※生活介護の事業所「ライフ・ステージ あおぞらセンター」は、法人内のB型事業所「ライフ・ステージ 蒼空舎」と農作業を行っていますので、他の事業所と共に掲載しています。

※「生活介護」は、デイサービス等を指し、介護が必要な利用者に対して、食事や排せつ時等の支援を行う事業です。





今回取材した事業所

菓子工房レネー

(A型運営) NPO法人 まあるい心ちゃんじの応援団

約1年前に朝倉に工房を作ったことがきっかけになり、周辺の地域の人たちから放棄地になっていた土地の耕作を依頼され始めました。作物は工房のお菓子作りに使うイチゴ、給食の材料になる玉ねぎやホウレンソウ、香菊等の野菜で、今後は日曜市への出品も検討しています。借りている土地を地域との交流の場として活用し、農業体験を市民対象に行っています。

「本業の菓子製造部門の商品は自信を持って製造していますが、客観的に品質を評価されるようにISO22000(食品安全の国際規格)取得に挑戦しています。利用者の将来を見据えて、農作業をプログラム化して利用者が農業技術を習得し、加工技術に挑戦することで六次産業化を目指しています。外で作業することで利用者がイキイキしている様子が見られるので、精神的な療法にもなっているのではと考えています。」と責任者の杉野修さん。



障害福祉サービス事業所 あさひ・はばたき

(B型運営) 特定非営利活動法人 あさひ会

10年前、知り合いの方から耕作放棄地になっていた高須の田んぼを借りたことが始まりで、5年ほどかけて葦原になっていた土地を耕して畑にし耕作をしています。作物は、ジャガイモ等の芋類やトマト、米、小麦、大豆等です。畑に作ったビニールハウスでは空き缶の給食で使用しています。

「現在の土地は、葦の生育の勢いが強く、さらに国分川の塩害もあり、本来耕作地として野菜を生産して市場に出し収益を上げていくということには確かに不向きな場所です。利用者が農業技術を学ぶことはできませんし、葦を利用した焼き芋をする企画等を立ててコミュニケーションを図ることもできるので、そういったところに強みを見出しています。自閉症の利用者なので、外で作業をすることでの反応を読み取ることは難しいですが、楽しんでやってみようと思っています。」と担当の安藤徹さん。



すずめ旭天神センター

(B型)生活介護 運営: 社会福祉法人 すずめ福祉会

2年ほど前に、同センターが清掃作業をしている木村会館の職員の紹介で地主から円行寺の土地を借りたことから始まりました。作物は、サツマイモやジャガイモ、大根等の野菜で、収穫したものは事業所の給食の材料や利用者の工賃向上のため黒潮物産に出荷しています。

「屋外での農作業で少しでも自然に触れてもらいたい、作業自体が利用者のリフレクシユになったらと思っていたところ、今の土地の紹介がありました。単に作物を作るのではなく、EM堆肥を使用して限りなく薬品を使わない栽培を目指しています。給食で出た生ゴミを肥料として利用できるような装置の導入も検討しています。掃除に行くとき声をかけても本人の気分が乗らず反応が鈍いことが多いですが、農作業に行く時はすくっと立ち上がり、みんな楽しみにしてくれているようで作業中にも笑顔がみられます。」と担当者の池本初津男さん。





今回取材した事業所

ライフ・ステージ あおぞらセンター

(生活介護 運営：社会福祉法人こうち福祉会)

利用者に外でのびのびと作業して欲しいという思いで、15年ほど前から春野町のハウスで花の苗を育て始めました。地域の人たちから耕作放棄地の快い提供もあり徐々に面積を増やしていき、現在はサツマイモ、オクラ、ミニトマトなどの露地栽培の野菜や綿花の苗、原木シイタケを作っています。作った野菜はサニーマート等の量販店や仕出し屋、花の苗は学校等へ出荷しています。

「工賃向上のために露地野菜だけでなく4年ほど前から原木シイタケの栽培も始めています。それぞれ得意なことや障害による特性に合わせた作業内容で、工賃向上のためにみんな意欲的に頑張っています。自分達で野菜を植え育てその成長を見守ること、いろんな人に食べてもらうことにも喜びを感じている様子が見られ嬉しく思っています。」と担当者の林幸孝さん。



高知ハビリテールリングセンター 就労支援事業所

(B型 運営：社会福祉法人ファミリーユ高知)

5年前に高知県から委託を受けて始めました。土地は高知県所有のものを使用して、イチゴ、文旦、タマネギ、大豆、サツマイモ、麦等と花の苗を栽培し、近森グループの病院の売店やスーパーに出荷し販売。野菜については同グループのグループホームの給食の材料としても使用しています。

「農業に限らず作業については、3障害（精神、知的、身体）の利用者自身が希望する内容と個々人の障害の特性に合わせて行うようにしています。」と支援員の久保内幸彦さん。

取材中、作業をしている人が、「屋内で作業をしていると眠くなってくるけど、外に出ると畑作業は風が当たるし、汗もかいて気持ちいいです。」気持ちよく疲れて、夜の時にはぐっすり眠れます」と嬉しそうに話してくれました。



ワークセンター太陽

(B型 運営：社会福祉法人 太陽福祉会)

2年前に、いの町大内で耕作放棄地になっていた土地の利用者を探しているとの情報を得て、畑を借り開始しました。作物はウコンを契約栽培し、収穫したものは企業に出荷する予定です。

3障害（精神・知的・身体）の利用者が農業をしており、「まだ収穫の経験はしておらず、すぐ食べられる野菜とは違い実感しづらいですが、皆、草引きなど周りの世話をしながらウコンの成長に喜びを感じています。収穫後、出荷して収入につながれば、育てることへのやりがいを実感してもらえるのでは。将来的には、利用者が自立し生活していくことを目指しています。」と担当者の安岡明子さん。





旭オンリーワン 芸術祭開催!

平成25年7月31日(水)、木村会館(高知市旭町3-12-1)の3階で、旭地区の芸術の祭典、旭オンリーワン芸術祭を開催しました。当日は約130人が来場し、旭地区の高齢者、難病や障害のある74名の作品展示に見入り、舞台上で芸達者が次々と披露する歌や演奏、踊りに拍手を送っていました。

旭オンリーワン芸術祭を開催したグループ「旭レインボー」のメンバー、高知市西部地域高齢者支援センター旭出張所の恒石満美さんは、「来場された皆様には、作品や舞台発表を楽しんでいただき、旭にこれだけたくさんのお芸家がいることを伝えることができました。既に『来年はいつ?』『また、ここでやるの?』等の嬉しい声をかけていただいていますので、第2回の開催も検討中です。こうした地域を盛り上げていく取り組みをこれからも企画し、また他の地域へも広めていけたらと考えています」と力強く語っていただきました。



旭オンリーワン 芸術祭開催まで...

「旭レインボー」の前身「旭レンジャー」は、平成23年3月に高知市西部地域高齢者支援センター旭出張所、同センター旭分室、高知市健康づくり課、高知市社会福祉協議会が連携して、地域で認知症の勉強会を実施したことをきっかけとして「地域を元気にしたい」という思いが担当職員間で生まれ、高知県社会福祉協議会の職員も加わって結成されました。

「旭レンジャー」では、旭地区を知るための町内会でのマップ作りを通じてサロンを開催、困っている人を放っておけない地域の「お世話焼きさん」の交流会を開催しました。平成25年4月、構成メンバーが変わったことから「旭レンジャー」は「旭レインボー」とその名を改めました。

日頃の活動の中で出会った多彩な趣味や技能を持つ地域の「芸術家」を、多くの人に知ってほしいという思いが生まれ、旭オンリーワン芸術祭開催へと踏み出しました。



障害者福祉センターだより



障害のある人の運転教室

平成25年7月6日(土)に高知県運転免許センターで、「障害のある人の運転教室」を開催しました。40代から70代の9名が参加。当日はコースでの運転や運転適性検査、車いす利用者による車への乗り移りの実技を行いました。この教室の様については、地元メディアの取材が入り、当日の夕方のニュースでも報道されました。



調理講習会

平成25年5月29日(水)に、株式会社上町池澤社長の池澤秀郎さんを講師に迎え「自立支援講座調理講習会～カツオのタタキ実演～」を開催しました。

講座では、講師によるカツオの解体や参加者によるカツオの薫焼き体験、焼いたカツオの盛り付けも行いました。薫焼きの炎はうつすらとした夕やみに映えて、

幻想的な雰囲気がありながら熱気も感じられ、そうやって皆で焼いたカツオの味はいつもとは幾味も異なり大変おいしくいただきました。



パソコン講習

平成25年7月1日より、「障害のある人のパソコン講習」が横山桂子さんを新たな講師としてスタートしました。障害のある人でパソコンの初心者を対象としています。時間帯は平日18:30～20:30(2時間)、土・日13:30～16:30(3時間)で、平日のみのコースと平日と土・日併用のコースをそれぞれ13日間程度、28時間の日程及び時間で年間全10コースの講習を予定しています。内容・詳細・申込については障害者福祉センター担当まで。



文化教室

障害者福祉センターと南部障害者福祉センターでは、文化教室を開催しています。参加希望の場合は、障害者福祉センター担当までご連絡ください。

年間開催の定期教室については右記の表の通りで、随時入講できます。また、定期教室以外に単発の教室を不定期に開催いたします。開催の際は、高知市社会福祉協議会のホームページ

(URL: <http://www.kochi.csw.or.jp/>)

にアップしますので、ぜひチェックを!

お問い合わせをお待ちしています。

●南部障害者福祉センター

教室	講師	開催日	時間
書道	岡崎 暢子	第1・3月曜日	13:30～15:30
陶芸	長岡さつき	第1・2火曜日	13:30～15:30

開催場所/高知市百石町3丁目1-30 電話 088-878-9070 FAX 088-878-9071

●障害者福祉センター

教室	講師	開催日	時間
書道	岡崎 暢子	第1水曜日	13:30～15:30
さをり織り	土居 安代	第1土曜日	13:30～15:30
紙粘土	和田 満代	第4月曜日	10:00～12:00 13:30～15:30
陶芸	生田 竜山	第2金曜日 第4木曜日	10:00～12:00 13:30～15:30

開催場所/高知市旭町2丁目21-6 電話 088-873-7717 FAX 088-873-6420

興味のある方はお気軽にご連絡ください。見学もできます。

- ◆募集人員:各教室 10名(人員に空きがあれば、随時参加できます。)
- ◆対象者:高知市在住、障害のある方。
- ◆受講料:無料。但し材料費は実費負担があります。

Relay Essay

リレーエッセイ

「きずな農園開地に寄せて」

高知市民生委員児童委員協議会連合会

会長 久武 邦雄



先日、高知市社協が運営するきずな農園開地の鑑入りに参加させていただき、関係者の意気込みを深く感じたことでした。

新たな事業拡大ということで、各報道機関も多数集まって、大きく伝えて下さり今後の活動の成果が期待されると思います。外に出て、青空を見ながら気分転換にもなる自然環境を無償で貸していただき、地権者の方に敬意を表します。本当にありがとうございました。

雑草を整理して、耕耘し土作り、定植、管理、収穫まで苦勞が続くと思います。

一定の労力を短く効率よくするために小型の管理機を導入するのにも一考かと思えます。

作物を栽培するうちに生活リズムに変化ができて、自立の技術の修得、訓練等も多くなり就労に役立つと前向きに考えれば、収穫が始まれば少しでも皆様の苦勞と努力が実り販売もでき、収益に

つながることになります。

消費者は新鮮で安心・安全な品物を求めています。

農業者も高齢化し、後継者不足で各地域で遊休地が増えています。このような取組みが各地に広がっていくこと、関係の皆様方の発展向上を願っています。



お知らせ

Information

インフォメーション

平成 24 年 4 月に高知市社会福祉協議会がホームページを開設しました。この中に障害者福祉センターのこともたくさん載っています。

高知市社会福祉協議会

URL <http://www.kochi-csw.or.jp/>

皆さん是非クリックを！
障害者福祉センターのアドレスがわかりました。

新しいアドレスは

asahi@kochi-csw.or.jp です。

みなさん、是非ご利用ください。



編集後記

今号の取材は8月の終わりから9月の初めにかけて行いました。残暑の中でしたが、赤とんぼが見られるなど、秋も感じられる季節でした。最近、農業の魅力が改めて見直され、1ターンの農業従事者が増えているようです。TPP交渉や後継者不足など、日本の農業が置かれている状況は厳しいですが、額に汗して働いた苦勞が報われる未来に向かってエネルギーを取材で出会った事業所の担当者から感じました。

(K・M)

